

本書の目次

【総論篇】

- 1 江戸幕府による国絵図・日本総図編纂事業 ●2 織豊期の越後国郡絵図 越後国瀬波郡絵図・頸城郡絵図 ●3 江戸幕府撰国絵図の多様な地図仕立て ●4 江戸幕府撰の日本総図 ●5 国絵図と日本図のはざま“寄絵図” 江戸初期の奥州図・九州図・四国図 ●6 六十余州図 関東を中心にして ●7 国絵図記載の石高と郷帳 ●8 道帳と国絵図 ●9 国絵図と料紙 ●10 国絵図の方位表記と凡例 ●11 国絵図の彩色 色の質感にみる江戸の美意識 ●12 国絵図の測量と歪み ●13 国絵図と城絵図 ●14 正保国絵図と元禄国絵図のはざま 寛文期の上野国絵図 ●15 国絵図作成のための領内図 ●16 元禄国絵図改訂に関する絵図元の記録 仙台藩の場合 ●17 毛利家文庫収蔵の防長両国絵図「加文」要請前後における2様の元禄度国絵図 ●18 国境縁絵図と海際縁絵図 周防・長門両国を中心に ●19 阿蘭陀流町見術と元禄日本図の描法 ●20 享保日本図と望視方法 ●21 天保国絵図改訂事業 弘前藩・盛岡藩を事例に ●22 蝦夷地像の変遷と蝦夷図 ●23 「琉球国絵図」と「琉球国変地改目録」悪鬼納から沖繩へ ●24 国絵図研究の歩みを俯瞰する 19世紀から21世紀へ

【各論篇】

- 25 江戸幕府撰国絵図以前の国土図 ●26 大名家所蔵の国絵図 岡山大学池田家文庫 ●27 八ヶ岳扇状地の開発と国境記載 ●28 国絵図と山論 陸奥国の国境・郡境 ●29 国絵図にみる街道と古城の表記 近世初期の阿波国絵図にみる領国支配 ●30 国絵図・日本総図にみる舟路 ●31 国絵図にみる災害 慶長豊後地震の被災地「かみの関」の比定 ●32 国絵図にみる信仰 特に寺社と霊山の描写について ●33 国絵図に描かれた被差別「村」 ●34 正保度の領内図にみる植生表現 庄内地域の自然環境 ●35 国絵図にみる「大坂川口新田」の開発 元禄・天保摂津国絵図の比較分析 ●36 絵図にみる海洋現象「鳴門の渦潮」

海の難所から名所へ ●37 写される国絵図 手書き彩色常陸国絵図を事例に ●38 刊行された国絵図 ●39 国絵図と名所図会 河内国を事例に ●40 「改正日本輿地路程全図」と国図 ●41 伊能忠敬と国絵図 ●42 シーボルト本の手書き彩色国絵図 ●43 「針図」と『琉球国図』乾隆大御支配（元文検地）による測量事業 ●44 実測国図・郡図の登場 伊能忠敬と地方測量への波及効果 ●45 幕末の絵図に描かれた因伯二国の台場「因伯両国海岸調査絵図」と「御両国図」 ●46 明治期における国絵図の利用 府県境、国界、郡界を中心に ●47 明治の城絵図「陸軍省城絵図」 ●48 絵図を活用した「地理総合」の授業の提案 下総国絵図を事例に ●49 国絵図の撮影 ●50 国絵図の展示

【コラム】(順不同)

江戸幕府撰国絵図・日本総図関連年表／飢肥藩領絵図にみる寛文2年「日向灘地震」／寛文7年土佐浦々国絵図／国絵図のなかの世界遺産／森幸安と国絵図／沿岸浅深絵図「淡州灘之図」／国絵図研究会の歩みと活動／国絵図作成の費用／国絵図調査（仮題）

【付録】

参考文献ならびに国絵図関連文献一覧／国絵図・古地図関連サイト一覧／国絵図関連新聞記事一覧

編者略歴

小野寺淳 (おのでら あつし)

茨城大学教育学部教授、歴史地理学会会長。1955年東京都生まれ。歴史地理学・絵図研究が専門。著書に『近世河川絵図の研究』（古今書院）、共編著に『国絵図の世界』（柏書房）、『絵図学入門』（東京大学出版会）など。

平井松午 (ひらい しょうご)

徳島大学名誉教授。1954年北海道生まれ。歴史地理学・歴史GISが専門。共編著に『絵図学入門』（東京大学出版会）、『近世測量絵図のGIS分析』『近世城下絵図の景観分析・GIS分析』（いずれも古今書院）など。



創元社 <https://www.sogensha.co.jp/>

(本 社) 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL(06)6231-9010(代) FAX(06)6233-3111
(東京支店) 東京都千代田区神田神保町1-2田辺ビル TEL 03-6811-0662(代)

(キリトリ線)

| | | | |
|---|------|------------------|-------|
| 創元社申込書 この注文書にて最寄りの書店へお申し込みください。書店ご不便の場合は直送もいたします。 | | 冊 申し込みます | |
| 国絵図読解事典 小野寺淳・平井松午〔編〕 | | 取り扱い店名 | |
| ISBN978-4-422-22009-3 C3025 | | 定価(本体 8,800 円+税) | |
| ご住所 | 〒 - | | |
| お名前 | フリガナ | TEL | () - |



国絵図読解事典

Encyclopedia of Kuni-ezu (provincial maps) of Japan in the Tokugawa Shogunate

小野寺淳 ◆ 平井松午 編

江戸幕府が、全国諸大名に何度も作成・提出を命じた巨大な国絵図。その最新の研究成果を網羅し、情報の宝庫である国絵図の幅広い活用を可能にする、初めてのエンサイクロペディア。

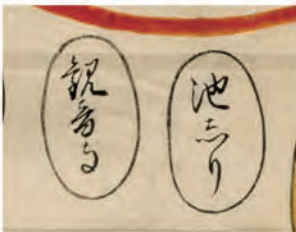
お薦めします

- 各都道府県・市町村史研究の基本レファレンスとして。
- 地域史・歴史地理・自然地理、土木・建築・都市工学・災害対策、幅広い分野に使えるレファレンスとして。
- 学校教育での、古地図・絵図利用のための参考書として。
- 古地図愛好家座右の書として。



創元社 B5判上製・320頁・オールカラー 定価(本体 8,800 円+税)

2021年2月刊行!!



慶長 慶長10年(1609)頃、「阿波国大絵図」徳島大学附属図書館蔵(徳1)、部分。



寛永 寛永18年(1641)頃、「阿波国大絵図」徳島大学附属図書館蔵(徳3)、部分。



正保 正保年間(1644-48)、「備中国絵図」岡山大学附属図書館池田家文庫蔵(T1-32)、部分。



元禄 元禄9年(1696)、「元禄国絵図常陸国」国立公文書館蔵(特083-0001-37)、部分。



天保 天保9年(1838)、「天保国絵図常陸国」国立公文書館蔵紅葉山文庫旧蔵本(特083-0001-38)、部分。

図4 各年度における村形の表記

原寸 縮小率 50%

慶長→寛永→正保→元禄→天保とそれぞれの村形表記の例を紹介。読解のための基本凡例知識を部分拡大図で分かりやすく解説。

9 国絵図と料紙

「モノ」として絵図の情報を調査する——絵図の史料学的価値の把握

絵図研究は従来、絵図に描かれた内容を主な検討の対象としてきた。これに対し、近年は絵図原本の品質・形状など、いわゆる「モノ」としての情報を調査し、その時代性や社会性を評価することにより、内容の検討だけでは解明しえなかった当該絵図の価値や作成技法を明らかにしようとする研究がみられる。原本調査の対象は、形状(紙の継ぎ方、装丁や折り畳み、裏打ちの構造)、基底紙の品質(主として紙)、筆記媒体の品質(墨・絵具など)、筆記態度(描法、丁寧さ)、作成方法(作図儀、縮尺の手法や順序など)など幅広い。これらを計測、観察して記録するだけでなく、絵具の分析などを中心に分析機器を用いた科学調査も数多く実施され、新たな知見が得られている。

この視点から国絵図については、国立公文書館所蔵の幕府伝来国絵図や各地に伝存する国絵図の「質」を対象として、研究成果を生み出している(本誌編2009-2012、料紙編2011)。このほか、地図類の「質」については、江戸時代後期の越中国の和算家、測量家である石黒市市ならびにその子孫が作成した地図類(重要文化財石黒市市蔵資料「和算家石黒市市蔵」)を対象に、修理事業中の調査による知見を加え、記録上の紙の呼称と地図料

紙の比定、地図の性格による料紙の使い分けに関する論文もある(他誌2019、野原2019)。

料紙の種類と使い分け

日本では、古代に製紙技術が伝来して以来、時代とともにその技術を改良、発展させ、独特の多様な品質の紙を作り出してきた。江戸時代は、紙の需要の高まりをうけて全国的に生産量が増えるとともに、品質が多様化し、商品として流通した時代である。その状況は、京都の木村青行が享保年間(1716~36)に編集し、当該期に流通した紙について網羅的に記述した『新撰紙鑑』(安永6年・1777刊)などから窺うことができる。

日本の製紙技術の特徴のひとつは、「解」を中心とした繊維の原料の特性を巧みに活かす点にあり、表1に各々の繊維の特徴を掲げた(大川2017)。和皮繊維とは、樹皮の内側に形成される無色透明な繊維(セルロース)で、柔軟かつ繊細な性質をもつ。また別の特徴は、ネリを用いて

| 種類名 | 繊維幅 | 繊維長 | 繊維の形状 | 束束の形状 |
|-----|-----------------------|--------|---------------------------|-------------------|
| 楮 | 10~30μm程度、種類により差異がある。 | 6~21mm | 立体と扁平が混在。太いものは球状立体的。 | 不定(束束の丸みを帯びるもの混在) |
| 三椏 | 1~20μm程度。 | 3~5mm | 立体。折返しは観察されず、中央が扁平で太さが揃い。 | 丸みを帯びる |
| 楮皮 | 10~30μm程度。 | | | |
| 竹 | 6~27μm程度。 | | | |

表1 主要な紙の種類の大まかき・形状

図1 料紙の繊維顕微鏡写真(左:楮皮(表1中の楮皮1)、右:楮(表1中の楮2))

近年の絵図研究で着目される料紙や彩色に使う顔料・染料の科学的な研究についてもそれぞれ一項目を設けている。図は料紙の項。

弘前藩による、天保国絵図の懸紙修正部分。「大筒臺場」の修正過程が具体的に分かる例を部分拡大図で説明。幕府撰国絵図最後の修正作業の実態に迫る。

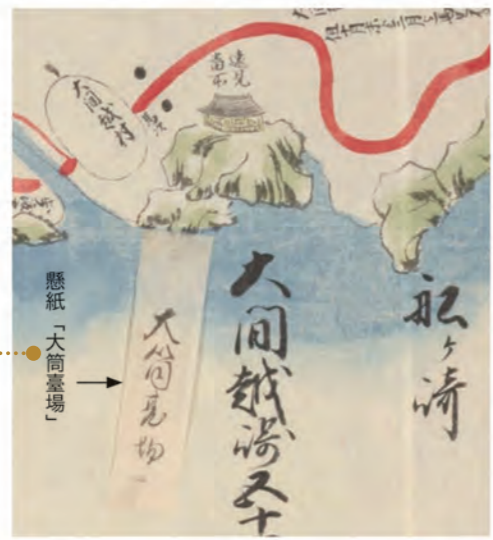


図4 大間越崎付近の台場表現 「陸奥国津軽領絵図」弘前市立弘前図書館蔵(M19)、部分。(下が西)



図5 大間越崎付近の台場表現 「陸奥国津軽領絵図」弘前市立弘前図書館蔵(M21)、部分。(下が西)

終了し、27日には絵図御用所が引き払われ、伺前藩の場合もそうであったが、通常、藩は幕府

縮小率 90%

『国絵図の世界』刊行から16年。国絵図研究会の総力を結集して編集。カラー図版約400点収録。



図9 日光東照宮 「天保国絵図下野国」国立公文書館蔵(083-0001-40)、部分。図は上が北。



図10 立山頂部 「天保国絵図越前国」国立公文書館蔵(083-0001-72)、部分。図は左が北。

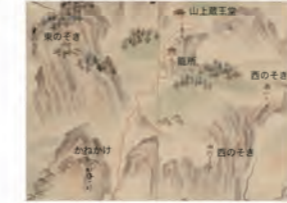


図11 山上王宮頂部 「天保国絵図大和国」国立公文書館蔵(083-0001-33)、部分。図は下が北。

霊山か否かを区別するのはむずかしい。したがって、山容から霊山特有の表現を指摘するのも困難である。しかしながら、著名な霊山には、信仰登山のために、それ相応の堂舎が山頂や山麓に建立されており、それらの描写による山であることを認識できる。上述の比叡山は一例である。

ここでは、越中国絵図の立山の描写をたい(図10)。得載図は山頂部分であり、異なる表現ながら、五つの堂舎が連続する。文ではないが、おそらく宿坊のための至室である。図の左手に連なる頂部が鋭い岩壁群は、最近の峠々を表していると思われる。もう1大和国絵図から、現在の山上ヶ岳山頂部の紹介する(図11)。吉野から熊野に至る近世における修験道最大の修行場であった北嶺の山上ヶ岳は、「山上参り」と称する山目的地でもあった。国絵図には、山上(絵図では「山上王宮」)の建物、そこに至るからの道とともに、「西のそき」「東のそき」など、今でも有名な行場が描かれる(小田2001)。

(小田)

縮小率 50%

茨城県の高校での、絵図を用いた地理総合科目教材の例。水害の多い地帯が歴史的にどのような土地であるかを視覚的かつ実証的に教えるために絵図を活用。

国絵図に描かれた寺社や霊山の描写を解説。さまざまな情報が描きこまれた絵図の特長を表す一例。



図2 荒川周辺の治水地形分類図 出典: 国土地理院。

1978、長命・重藤1987、村井・鈴木2000(ほか)が行われた地帯であり、地域の自然環境の特色とともにことを認識させる。さらに、平成27年水害で被害が甚大だった常総市のハザードマップから、鬼怒川周辺地域と飯沼川沿いの水田地帯においても浸水の危険性が高まっていることを読み取る。とくに水田地帯で水害の危険性が高いことに注目

絵図を使用した地理総合の授業案 ① 水害の写真とハザードマップの読み取り



図3 「光禄下野国絵図」にみる「荒川」 元禄9年(1690)、国立公文書館蔵(特083-0001-34)、501×391cm。

48—絵図を活用した「地理総合」の授業の提案 | 273

縮小率 50%



図4 壁に貼る作業(ケース外) 愛媛県立歴史文化館。

縮小率 80%

愛媛県歴史文化博物館での国絵図展示の例。図の前の大人と比較すると、国絵図がどれだけ大きいかがよく分かる。

国絵図研究会について

国絵図研究の第一人者である川村博忠を代表に、平成8(1996)年に発足。非常に大判であるため古地図分野の中でも学術研究が立ち遅れていた国絵図の本格的な研究調査に画期をもたらす。現在は、本書編者の小野寺淳が代表を務める。

ホームページ <http://www.kuniezu.net/>